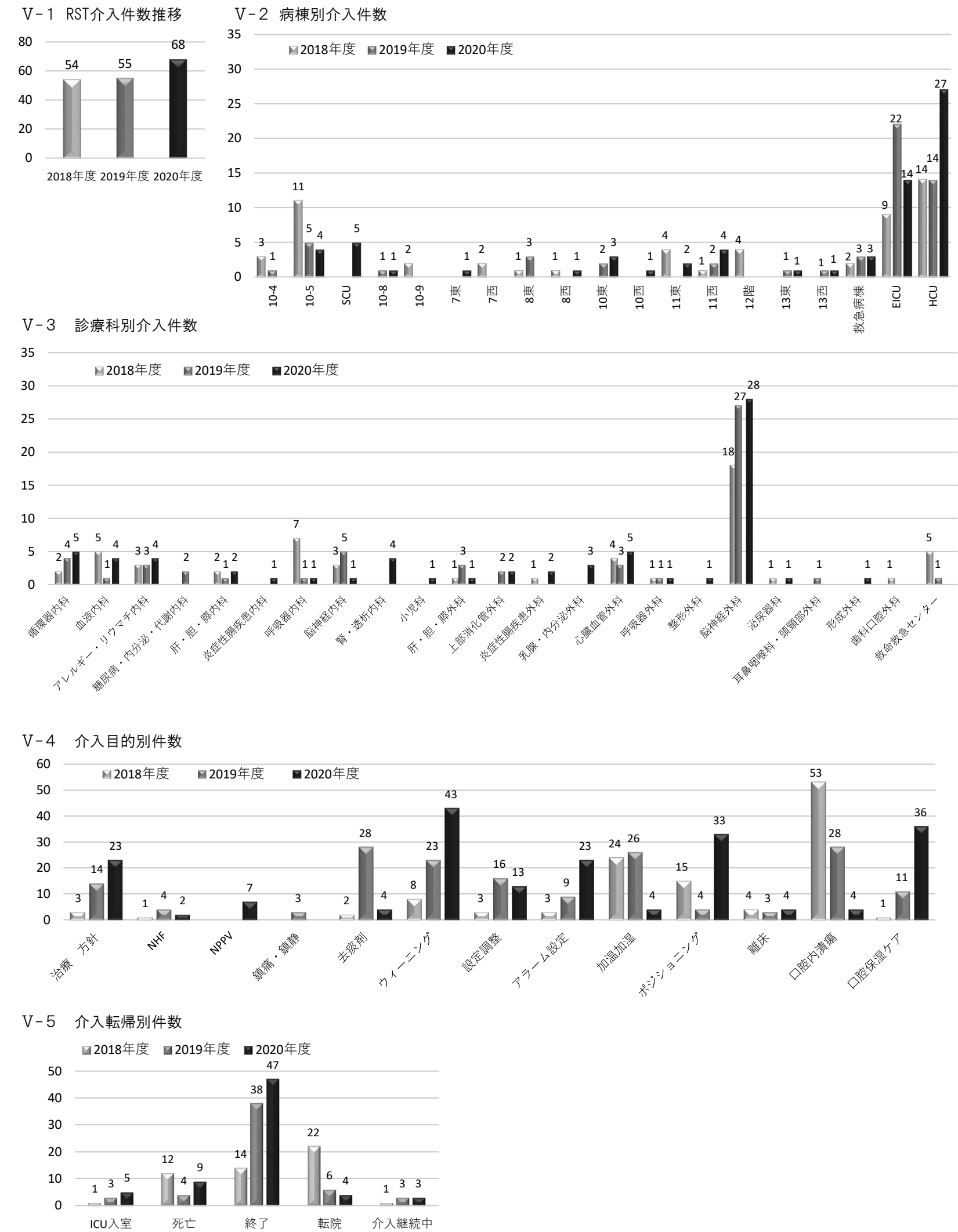


V 呼吸ケアチームおよびラピッドレスポンスチーム（RRST）



呼吸ケアに関しては、医師、看護師、理学療法士（PT）、臨床工学技士（CE）、歯科衛生士（DH）のメンバーで構成されており、人工呼吸器からの離脱や人工呼吸器管理中の患者ケアに関して介入している。診療報酬においても「A242 呼吸ケアチーム加算（週1回）」として150点が算定できる。ラウンド回数などを考えると必ずしも病院収益に貢献するわけではない。しかし、本院が標榜する「医療チームの推進」に関して、呼吸ケアチームはまさしくチーム医療を具現していると自負している。

昨年度より、新型コロナウイルス感染症の影響にて、一般病棟での人工呼吸器管理が増えつつある。そのため、一般病棟でも人工呼吸器の管理やケアが安全に行えるように、ユニット病棟より転棟する際から継続して介入し、患者さんの呼吸管理を途切れることなく行えるように調整している。



V-4 介入目的別件数

介入目的	2018年度	2019年度	2020年度
治療方針	3	14	23
NHF	1	4	2
NPPV	0	0	7
鎮痛・鎮静	3	0	0
去痰剤	2	28	4
ウィーニング	8	23	43
設定調整	3	16	13
アラーム設定	3	9	23
加温加湿	24	26	4
ポジショニング	15	4	33
離床	4	3	4
口腔内潰瘍	53	28	4
口腔保湿ケア	1	11	36

V-5 介入転帰別件数

介入転帰	2018年度	2019年度	2020年度
ICU入室	1	3	5
死亡	12	4	9
終了	14	38	47
転院	22	6	4
介入継続中	1	3	3

ラピッドレスポンスチームとは、患者さんの像帯が重症化する前にその兆候を発見し、介入するシステムであり、当院では、本活動が発足して9年が経過した。活動目的は、入院患者さんの「予期しない状態変化による院内心停止」を回避することである。

入院患者さんの予期しない院内心停止を予防するためには、患者さんの状態変化を見逃さず、医師と看護師、多職種が患者さんの状態を共有し、適切な治療・ケアを提供することが重要である。そのため、当院では看護師の「アセスメント力」の向上に注力した活動を展開している。

新型コロナウイルス感染症の影響により、一般病棟における重症度が上がってきており、RRS介入でも呼吸器系・循環器系の介入が増えている。今後もこのような状態は続くことが考えられ、今後も呼吸ケアチームと連携しながら活動を行う予定である。そして、病棟看護師を対象とした「気づき研修」を継続するとともに、受講した看護師が、病棟内でのRRS活動が出来るよう教育的支援も行っている。

V－6 ラピッドレスポンスシステム起動基準

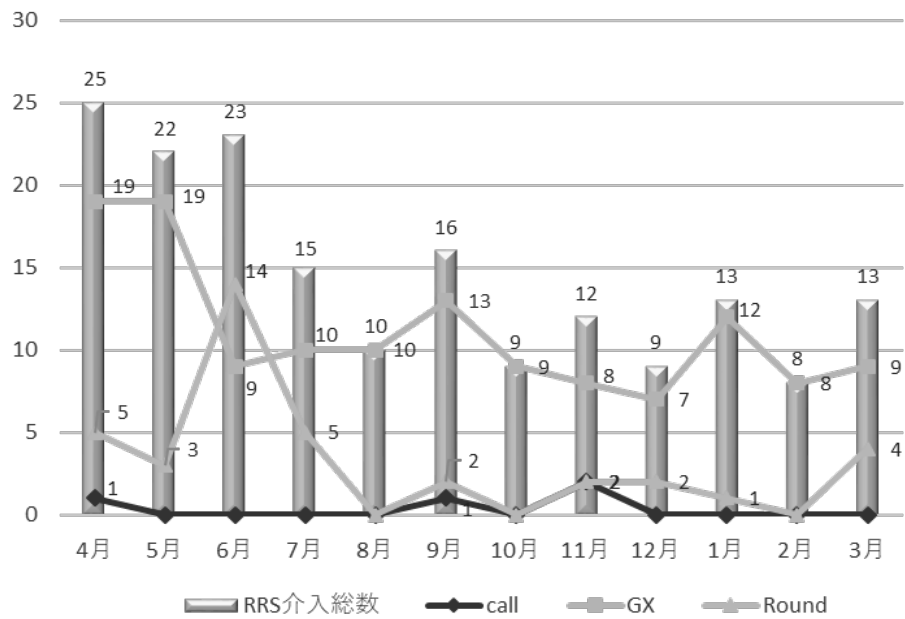
項目	内容	指標	コード
呼吸器系	新たな自発呼吸数の低下	8回/分以下または28回/分以上	Ra
	新たな酸素飽和度の低下	SpO ₂ 90%未満	Rb
循環系	新たな収縮期血圧の変化	90mmHg未満	Ca
	新たな心拍数の変化	40回/分以下または130回/分	Cb
尿路系	新たな尿量の低下	50ml/4H以下	Ua
神経系	新たな意識レベルの変化	GCS・JCSの明らかな低下	Na
		麻痺の出現	Nb
		痙攣の出現	Nc
全般事項	患者に何か気がかりなことがある	例：チアノーゼ、ADLの低下、予想範囲外の吐・下血など	Ga

※14歳以下は対象外

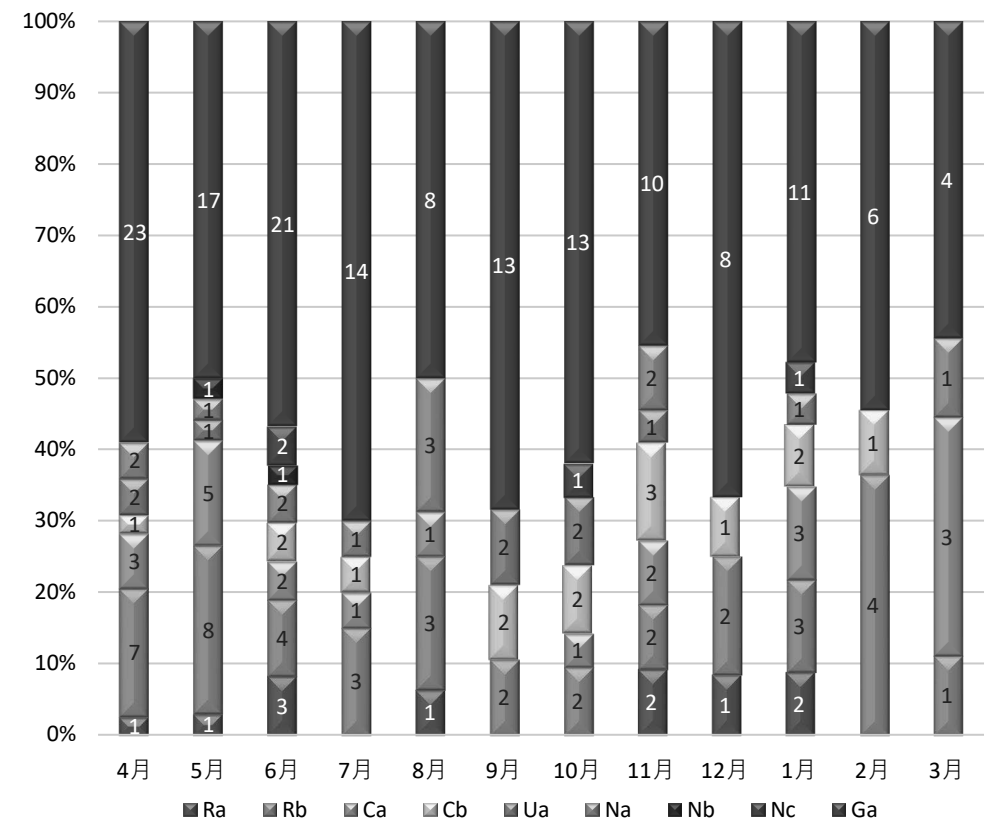
※コール対応は平日8：30～17：00

※ケアに困っているなども気軽にご相談ください

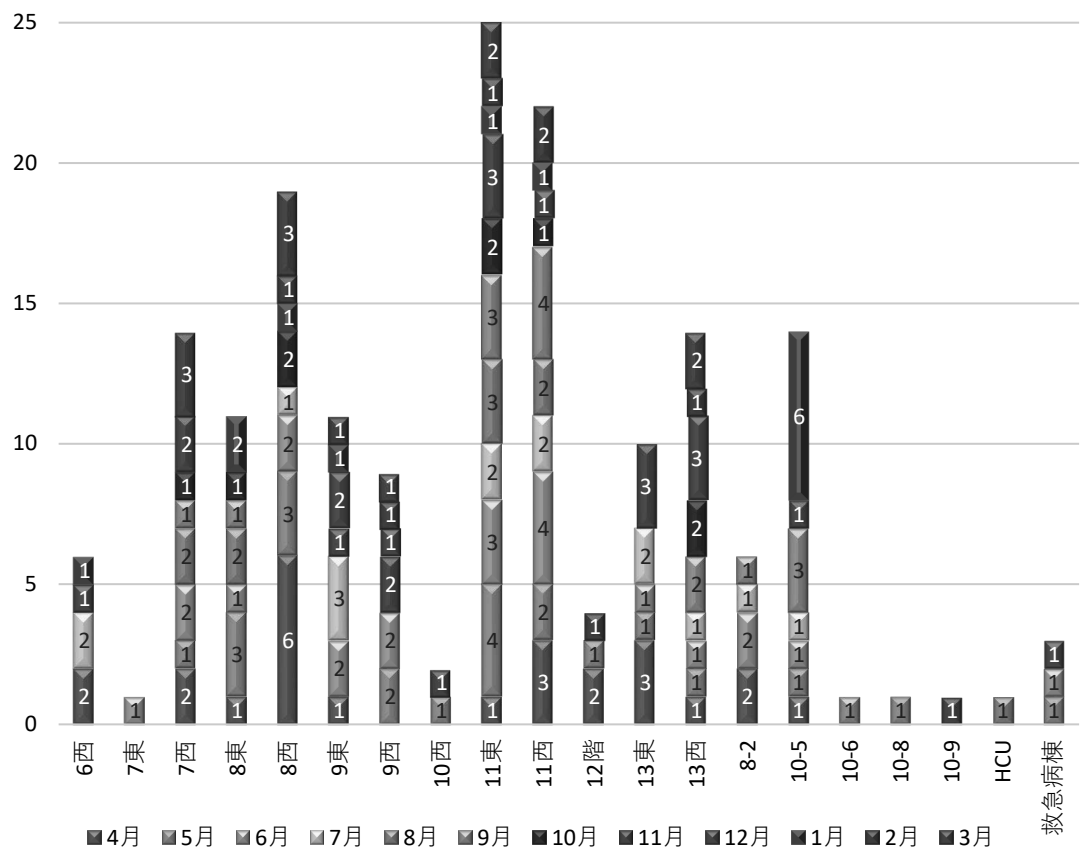
V－7 2020年度RRS介入総数と介入経路（合計175件）



V－8 2020年度介入に至ったコード 月別の構成比率（合計263件）



V－9 2020年度病棟別介入件数（合計175件）



V－10 2020年度診療科別介入件数（合計175件）

